

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
周りの協力を得られる人 できる人は、自分の考えを“周知徹底”させる

「伝える力」とはいわゆるコミュニケーション能力です。そして、コミュニケーション能力がとても重要なものであることは間違いなく、仕事においては、社内における「情報の共有化」のために必須のスキルといえます。同じ情報を持てば、誰もが同じ結論に達するはずなのです。しかし、そこに私心があると、結論にブレが生じます。結論が違ってしまふのです。そうならないために、情報の共有をますます徹底し、私心により判断を排除してバイアスがかかることをなくしたうえで、伝える力を生かさなければなりません。問題解決や戦略を練るとき、まずすべての情報を共有化して、次々に情報を積み上げていく過程が必要です。積みあがったその先に、解決法や解決案、結論などが導き出されます。ですから、とにかく「共有化の努力」をしなければならず、その点においてコミュニケーション能力は欠かせません。

「伝える力」がなければ、自分の考えていること、思っていることは伝わりません。正しい情報も伝えられません。逆に、「伝える力」のある人は、周りからの協力を得やすくなります。仕事においてはほとんどの場合、周囲の「協力」を得られないことには先に進めません。仕事において新しい企画を提案したり、今までのやり方を変えようとしたりするなど新しい動きを起こせば、抵抗勢力が必ず現れるものです。しかし、自分の意見に「NO」といわれたからという理由で、相手と敵対するのは間違っています。大切なことは、会社のために何をするのか、何ができるのかという点については、社内の誰もが同じ方向に向かって一緒に進んでいることに気づくことです。ただ「進み方」について、徒歩で行くのか飛行機で行くのか考え方の違いがあるだけで、どの社員も目指す方向は同じはずで、それを忘れず、情報の共有化を徹底的に行うためのコミュニケーションを実行し、工夫すれば、自ずと協力を得られるようになります。

また「伝える力」は、リーダーに求められる資質の一つでもあります。鉄道ファンが新幹線の写真を撮るとき、どの部分を被写体を選ぶかといえば、基本的には先頭車両です。「先頭」だけに目立ちますし、それぞれに特徴のある形をしていて、いわば「新幹線の顔」ですから当然です。しかし、新幹線という乗り物は、先頭車両だけでは成り立ちません。お客さんを十分に乗せることができるのも、速いスピードで目的地まで短時間で到着できるのも、先頭車両の後ろに続いている客車や動力車の力です。それらの車両が先頭車両と一緒に走ってくれないことには、新幹線とは名乗れません。組織も同じです。新幹線の先頭車両は、会社でいえば経営者です。部署の部長や課長などもそうです。小さなコミュニティでいえば、直属の上司にも当てはまります。上に立つ人間は一番目立つし、舵取りの役目を果たしますが、その後に続いてくれる社員や、動力となってくれる部下がいなければ、組織として成り立たないのです。

社長が部下のことを抵抗勢力と呼んでおきながらチームとしていいパフォーマンスができるかということ、それは大きな疑問です。あとに続く人たちに「ついていこう」「努力しよう」「行動しよう」という気にさせるのは、先に立つ経営者や上司の「伝える力」に他なりません。情報を共有しようとする姿勢、それを実現する実際の行動や言葉、また解決策や結論を周知させるためのコミュニケーションのあり方が、伝える力となります。それができる人が「伝える力のある人」です。そして人の上に立つリーダーとしてふさわしいのは、この「伝える力」を備えている人なのです。

「伝える力のある人」は、どのような人であると言っていますか？

()